豊玉二中だより

令和５年度 第４号
発行日　７月７日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校　長　　神山　信次郎

「命をみつめて」

副校長　新井　智子

「命はなぜ大切なのでしょうか？」この質問に生徒は戸惑います。大人も同様に悩む難問です。みなさんも少し考えてみてください。

「命は一つしかないから。」「失ってしまったら取り返せないから。」「親が命懸けで自分を産んでくれたから。」「家族が大事に育ててくれたから。」主な答えはこのようなものです。正解などありません。ただ命の大切さについて改めて考える時間が重要なのだと思います。

道徳の授業に１３歳で生涯を閉じた猿渡瞳さんの「命を見つめて」という内容があります。瞳さんは小学校６年で骨のがんになり、命について真剣に向き合います。母からがんであることを知らされ、沢山泣いた後、言った言葉は、「わたしががんで良かった。ママががんになったら、わたし、つらくて、生きていけなくなってしまう。」でした。そして、瞳さんは同じ病院に入院する小さな子ども達を励ましながら闘病生活を送ります。しかし、一つ歳下の亜紀ちゃんが亡くなってしまいました。想像以上のショックだったと思います。泣くだけ泣いた後「負けないからね。亜紀ちゃんの分も、生きてみせるから。」と、お母さんを見つめて言いました。その後、入退院を繰り返しながら市の弁論大会に出場しました。瞳さんのスピーチは「みなさん、本当の幸せは何だと思いますか？地位や、名誉やお金でもなくそれは一番身近にあるもの。今、生きているということが本当の幸せであることが、病気になって分かりました。病気で闘っている人が一番輝いていた。健康で学校に通えることや家族と過ごせること。当たり前の日常がどれほど幸せか。たとえどんなに困難な壁にぶつかっても、悩みも苦しみも、命さえあれば必ず前に進んでいける。世の中戦争や自殺などのニュースを見ると怒りでいっぱいになる。どれほどの人はそのことに真剣に向き合っているのか。命を軽く考えている人に、病気と闘っている人の姿を見てほしい。どれほど命が尊いか知って欲しいです。人間はいつ、どうなるかなんて分からない。だからこそ一日一日を大切にしてほしい。」要約するとこのような内容です。

道徳の授業でこの動画を生徒に見せたとき泣いている生徒もいて、皆引き込まれるように真剣に聞いていた姿が印象的でした。そして、命の大切さをもう一度考えなおしていました。

今、生きていること。そのこと自体が幸せであること。当たり前の日常がどれ程幸せか考えることは、難しいことです。しかし、時には「命をみつめて」みることで毎日を精一杯生きて、命の尊さを感じることができるでしょう。

猿渡　瞳さん　言論大会動画　の QR コード